

ららばい、通信

Lullaby News

2022年
秋号

子供たちの未来へ



画／大野隆司

[目 次]

- | | | | |
|---|-----------|-------------------------------|------------|
| ■ シングルマザーのムラづくり | 西館 好子 …1 | ■ こもりうた | …11 |
| ■ 連載 子ども虐待は、今「面前DV」 | 川崎 二三彦 …2 | ■ 連載 「人生の三楽 いや四楽か。」 | 帯津 良一 …12 |
| ■ 絵解き 風流子ども歳時記 秋の絵暦・うたごよみの巻 | 尾原 昭夫 …4 | ■ 日本子守唄紀行 「安珍清姫の唄」 | 鵜野 祐介 …14 |
| ■ 特別寄稿 「発達障害の人たちの出会いから 学んできたこと、行ってきたこと」 | 高原 朗子 …8 | ■ 連載 直島便り 「笑い声のあふれるところ」 | 山根 光恵 …16 |
| ■ MONOGATARI／はじめてのおとまり | 川島 俊六 …4 | ■ INTRODUCTION／『老記者の伝言』 木瀬公二著 | …17 |
| | | ■ 活動報告 | …17 |
| | | ■ 寄付者名簿 | 2022年10月発行 |



シングルマザーのムラづくり

西館 好子

再度私の体験をお話します。もはや50年前の昔のこと、私は三人の娘の母でした。縁あって日本とは真反対に位置するオーストラリアの首都キャンベラに家族で住むことになりました。

言葉もわからず日本から一家で生活の拠点に移すことの意味も考えず、ノースポーンフラットというアパートにいたときは、我が無謀さに嫌気がさすほどでした。

ノースポーンフラット北向き……ああ、しかしオーストラリアでは北から太陽が昇るのです。こともたちの学校へ転入手続きに行った途端、その瞬間から子どもたちはバスでの遠足に連れていかれてしまいました。買い物に行くこと一メートルばかりの犬が後をついてきます。買った肉は血抜きもされていなくて、紙に包まれると、歩いているうちに買物からぼたぼた血が垂れます。それをなめについてくるのです。

でも何とか家族の為に面白いことを考えなくてはなりません。まずは友達を作ろうと考え、キャンベラ大学のアルボンソ教授にお願いし、友達を紹介していただきました。

アルボンソ教授の奥様はチエ子さんという日本人、彼女を通して陶芸家のスエン・ヒロエさんとお友達になりました。

彼女は京都出身で、ご主人がオーストラリアの方で画家でした。ご両親は一人娘のヒロエさんについてきて、オーストラリアに家を建て同居していました。

懐かしいぬか漬けもどきのパンの糠づけの作り方を教わり、白パンのおもちも作りました。

ある日、二人と一緒に時間かけて、クエンピアンクエンピアンの女性村バザールに行こうと誘われました。スエンさんはその女性の方に陶芸を教えていたのです。

興味本位に出かけていきました。とにかく

最初は遠く感じました。晴れていれば道でも、雨が降れば川という道路を車で山に登っていきました。山道には小さな鉢植えのお花屋、ハーブが並び、一ドルで好きなものを選んで買うことができました。

綺麗なお花のアーチをくぐり女性村に入りました。

小さな屋台が並び、乳母車には様々なものが並んでいました。自作のジャムやケーキ、パンやピクルス、手作りの絵本や花束、詩集、ハンカチや小物、お人形や玩具、どれを見ても手作り、アイディア満載の夢が詰まったものでばかりです。

エプロンだけを並べて売っているところで私は長い長いレースのいばいについてたエプロンを買いました。

おきピアノがあり、だれかが演奏しています。手製の楽器を買った子供が、そのピアノの横で笛を吹いていました。思い思いの中で、何とも楽しい空間が生れているのです。

私はそれからずっと女性村に行くことに病みつきになりました。

何より楽しいのと、みんなが笑顔でそれぞれ生活の細かなものを作っているのを見て、そこからコミュニケーションが生まれてくるのがよくわかります。言葉が分からないのに、私には沢山の友人ができました。

しかし、何で成り立っていたのか、ちよつと不思議ですが、私もあとで日本の絵葉書や小風呂敷を、売っていたように覚えています。皆スカーフや画と思っていたようです。

このバザールは毎週金曜日にフラットの郵便受けにチラシがポストインされます。「あなたの家に眠るおばあさんやおじいさんのものを持参して時代パーティに参加しませんか」

「一番汚い汚れているものを子どもに着せて

お出かけください」

「知らないものは交換しましょう」

「あなたの赤ちゃんを見せて」

「あなたの旦那様に一日お父さん役をお願いできますか」

「迷えるわんちゃんと猫ちゃんに慈愛を」

「パッチワーク二人三枚限定制作」

奇妙な文面の、よくわからないものですが、アイディアにつられて出掛けて行きました。すでに遠いなどという感覚はなくなっていました。

このバザールを考え実行したのは5、6名シングルマザーの女性たちです。仕事もなく、山小屋をみんなで借りて、助け合いながら楽しい事を考えるのを仕事にしようと思ったそうです。

生活に対する取り組みの確かさが、人を呼ぶきっかけという事のようです。

自然は立派な素材をくれるし、そこにドラマを作り、創作する生き方をしたかったと共感があつたようです。

今思えば、無から有を、苦を楽しむに、今日を明日への希望へ、仲間と一緒に立ち向かえる精神が、人を呼び込んだのだと思います。

その始まりの村は今立派にクエンピアン市となっています。

今その昔を思い出しながら下仁田の町を歩いています。材木工場が多い町で木屑を見ると、これは何かになるぞーと思い、流れる溪谷を見ると、家族の釣り場にできないだろうとか、など、ぼんやり歩かないよう心がけています。

だれの中にも才能は有る。使うかわないかは自分との問いかけの中にある。考えるより実行しよう。人生の冒険を旅にして楽しもう。所詮私たちは時間の生き物なのだから。



令和4年

ららばい通信 秋号を お手元にお届けさせていただきます。

大切なものはいとも無くなつてみて、初めてわかるものとだれもが知っています。お財布がなくなつて、お金の大切さが身に沁みるし、親が亡くなつて改めてその恩を知り、身近な人がいなくなれば、その存在の大切さに愕然とするなど、誰もが経験することに違いありません。

でも最近のようにコロナは収まらず、洪水、地震、殺人、事故、事件と限りなく驚くような事ばかり続き、とうとう他国とはいえ、戦争が勃発してしまい、長引くにつれ思うにつれ、なかなか懲りないのが「人間」なのだと思うざるを得ません。

大切な生活があつという間に悲劇となつてしまふ事がつづくと、本当に何が大切なのか、分からなくなつてしまふそうです。命は一番大切ですが、突発的に一瞬にして失われてしまうこともあるし、家族や友達も大事ですが、それだけでなく隣の人も知らない人もみんな貴重な存在にちがいないのですが、長生きは嬉しいけれど望みなく長らえているのでは生存しているだけかもしれません。

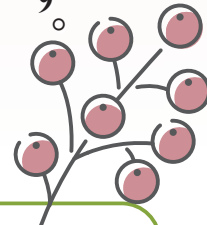
そんな中で何を大切にしていったらいいのでしょうか。今という現在に全力を挙げて生きて行くしか方法は無いのでしょうか。コロナに罹りたくはなくても、手の打ちようのない現状では至難の業です。戦争は誰かが反対していても収束を見ません。反戦だった動きはウクライナの紹介や音楽会、偽善的なボランティアの数を増やしていくばかり、ますます「命」の大切さは言葉にしかすぎなくなつてしまふそうです。

私の結論はまず、「一瞬一瞬を大切にしていくなか」と思う事にしました。昨日居た場所より一歩前進を心掛けるようにです。明日は未来の延長線上にある、を大切にしよう。明日は未来の延長線上にある、を大切にしよう。

猛暑の夏も間もなく秋風に心身が涼やかになるはずですよ。

ららばい通信お届けさせていただきます。

日本ららばい協会 理事長 西館好子



こんなに淋しく、後味の悪い、心に尾を引く事件はありませんでした。

静岡県牧之原の認定こども園の送迎バス幼児置き去り事件です。

たった三歳の子供が灼熱のバスの中で脱水症状、熱射病で亡くなりました。衣類を脱ぎ、水筒の水を飲みほし、幼い知恵を絞った末、何時間も戦い、床に倒れていたのです。

痛ましいでは済まされません。ミスの連鎖など言い訳にもなりません。

子どもという小さなかけがえのない命を預かる大人、関係者全員の責任と罪です。

亡国の国に ならないように

日本ららばい協会 理事長 西館好子

認定、保育園、幼稚園……どう違うか、どこが違うか、幼児に関わっていない者には理解できないでしょうが、認定は保育園と幼稚園を併せ持つ内閣府管轄、保育園は児童福祉をメインにした厚生省管轄、幼稚園は教育施設としての文部科学省管轄、とにかくぶちきりの縦割り行政の国の法律の中で、同じ子供たちは区分けされ、その扱い方の趣旨を異にしているのです。

す。子供たちはすでに幼児期に区別と扱いをうけているのです。

子どもを扱う側にも卑屈さや儲け主義がはびこっていることも否めません。

それはともかく、6人しか乗っていないバス、まして園を代表する園長先生が付いているのに、ここでは愛情、配慮が全くゼロだったことに驚かされます。多分乗車時の挨拶や笑顔も無かったことでしょう。子供を扱う資格のかけらさえない人が、園や施設を運営している厚顔無恥に怒ります。

こんな事件がいくつも続きました。両親が幼い子と乳幼児を置いてパチンコに行っている中で子供を死亡させた事件。同じに子どもを車に置き去りにして男児だちの家に泊った末の幼児の死亡、どうしたらこんな大人ができるのだろうか、と思います。

子供を大切にできない大人の国は間違いなく憂国亡国の道をたどります。今一度胸に手を当てて、誰もが考えなくてはならない時代です。

対する暴力その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと」
法律の文章は、どうしても堅苦しい感じが否めないが、わかりやすく言えば、**「へこ」とばによる脅かし**、**「へこ」子どもを無視するなどの拒否的な態度**、**「へき」ようだいとの著しい差別的扱い**、**「へき」などを挙げる**ことができる。ただし、例示したような事例が突然増えたわけではない。というのは、心理的虐待急増の要因は、別のところにあると思われるからだ。すなわち、「児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力」、いわゆる「**面前DV**」と言われるものだ。



新連載 02

子ども虐待は、今

面前DV

子どもの虹情報研修センター
川崎 二三彦

児童虐待の件数は、過去最多を更新

「日本では、一体何人の子どもが虐待されているのだろうか」

深刻な児童虐待事件が発生するたび、私たちは未来を担う子どもたちのことが心配になり、こんな疑問を抱くことになる。政府が、国民のそうした関心に応える必要を認識して統計を取り始めたのは、平成2年度のことだ。だから、統計を始めてからすでに30年以上になり、今年も去る9月9日、児童相談所が対応した昨年度（令和3年度）の虐待相談対応件数（速報値）が発表された。それによると、件数は昨年度に続いて20万件を超え、過去最多を更新したという。

図1を見ればわかるように、この30年間、児童虐待の件数が前年度を下回ったことは一度もなく、一貫して右肩上がりで増加を続けている。ただし、発表された最新の数値を詳しく見ていくと、これまでとは少し違った傾向も見えてくる。その一つは、前年度に比べて、増加の割合が鈍化

している点だ。事実、児童相談所を設置している全国70の都道府県市のうち、30自治体で前年度を下回っている。また、虐待の種類、ごとの件数についても特徴が見られるので、それらについて、以下で振り返ってみよう。

身体的虐待は微減

虐待件数が一貫して増えている、と先に述べたけれど、身体的に限れば、ごく僅かだが、実は前年度に比べて減少している。私は、本誌前号で、深刻な虐待やしつけを口実にした数々の暴力が続くなか、「体罰禁止」が法定化されたことを紹介したが、仮に、法改正が影響して体罰が抑制されたのであれば、喜ばしいことだろう。もっとも、身体的虐待が減少したとはいえ、5万件が4万9千件あまりに微減しただけであり、手放しで評価するのは拙速であることも、この際付け加えておきたい。

心理的虐待の増加

その中で際立つのが、心理的虐待の急増だ（図2）。虐待の4つの類型の中で、心理的虐待が初めて最多となったのは平成25年度だが、その後は、他の種別を圧倒して増加を続け、昨年度はついに全体の6割を占めるまでになった。虐待件数全体の増加分も、そのほとんどは心理的虐待の増加に拠るところが大きい。では、心理的虐待とは、そもそもどのようなものなのか。児童虐待防止法は次のよう定義している。

「児童に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応、児童が同居する家庭における配偶者に

目黒区虐待死事件とDV

「もうおねがいゆるしてください」

こんな言葉を残して亡くなった5歳の女兒、結愛ちゃんの母は、虐待の加害者であると同時に、深刻なDVの被害者でもあった。結愛ちゃんの養父でもある彼女の夫は、母と同じ職場で働く8歳年上の男性だった。彼女が獄中で書いた『結愛へ』（小学館）によると、
「物知りだわ。わがまま聞いてくれるし、頼もしい。この人は正しいんだ」
そんな気持ちで結婚したという。だが、しばらくすると、

「お前らのためだ」
「苦しい思いをしなければ良い子にはなれない」
しつこく称して体罰を多用し、母に対しても毎日長々と説教を繰り返すようになった。反面、話が終わると泣いてる母の涙を拭いて、頭をなでたりもする。けれどそれが続くうち、「泣いて許されると思ふなよ」「なんでわからん！」などと、耳を引っ張り、鼻をつまみ、頭を揺すり、謝っても許すことはなかったという。典型的なDVと言えるよう。



歪む母子関係

ところで、DVというのは、単に身体的な暴力だけを言うのではない。こんな例もあった。経済的な問題もなく、男児にも恵まれ、一見幸せそうな家族だったが、妻の実家と夫が対立するようになると夫婦関係も悪化し、夫は何かにつけて妻を小ばかにし、支配し、子どもを巻き込んで攻撃する。

「虐待だ、逃げるー、殺されるぞ」
「何が虐待なの？」
「うるさい、精神病」
こんなことが繰り返されるうち、
「せいしんびようー、ちょっと来おい！ わはは」
5歳の子どもまでが父のまねをしようとする。とはいえ、甘えたい盛りには違いない。母親と一緒に寝たいのだけれど、そんなことさえ父親の許可がいる。

「パパ、今日はママと寝てもいい？」
「勝手にしたらいいじゃん。パパ、酔った」
ところが、母親の布団に潜り込もうとする子どもに気づくと、父は急に態度を変えて嫌みを言い、子どもは泣く泣く母のそばを離れるしかないのであった。こんな日々を送る子どもが一体どんな大人になるのか、誰しも不安に感じるのはないだろうか。

夫の態度は、妻に対するDVであると同時に、母子関係を歪め、子どもの心に深い傷を残す心理的虐待と言わざるを得ない。（児童の）心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与える「児童虐待防止法」といわれる児童虐待の克服は、家族の、夫婦のあり方を含めて、やはり社会全体で考える問題だと言えるよう。

風流子ども歳時記

（秋の絵暦：うたごよみの巻）

わらべうた研究家 尾原昭夫

虫聞き



虫聞き 歌川広重画
「東都名所」道灌山虫聞之図（部分）

閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声

松尾芭蕉（「奥の細道」）

秋来ぬと 目にはさやかに見えねども
風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行（「古今和歌集」）

ミンミンゼミやアブラゼミ、ニイニイゼミなど、にぎやかに鳴き競っていた蟬の声も、秋が近づくとツクツクボウシや、カナカナカナカナの「ひぐらし」の合唱に変わり、やがて夏の蟬の声のシンフォニーから、秋の夜の虫の声のセレナー

デへ移り変わる。ようやく訪れる秋、猛暑からの解放とともに、日本の四季のありがたさをしみじみと思う。
「あれ松虫が鳴いている ちんちろちんちろ ちんちろりん あれ鈴虫も鳴きだした りんりんりんりん りいんりん あきの夜長を鳴き通す ああおもしろい虫のこえ」と、つい口ずさむ。

私など田舎でも町家の者には、土間の隅から聞こえるコオロギやスズムシの声の美しさに心をうばわれはすれ、松虫やくつわ虫、馬追といった虫は唱歌だけの幻の世界で想像するしかなかった。ところが上京して石神井公園の林のなかに住んだとき、草むら一面「ガチャガチャガチャ」のクツワムシのけたたましい音、そして玉川上水の樹木に鳴くマツムシの透きとおった声に耳を傾けて、虫の声にもずいぶんと地域の違いがあるものだということを知ることができた。江戸では何と月の出とともに虫の声も楽しむへ虫聞きといった、何ともぜいたくで粋な行事やそれにまつわる名所まであったのには、さすがと驚かされる。

よく鳴くのをおげてください まん
さまぜぜ（銭）やらしやい さあ上げ
ませう



虫売り
どうげ百人一首 江戸中期 享保頃

風の祭り

暦の「処暑」を過ぎて、猛暑からやっと解放される頃、今度は台風の災害がやってくる。今の九月一日前後、立春から数えての「二百十日」あるいは「二百二十日」がその主だった日とされ、各地で風の神が祀られ、風鎮めを祈願するへ風祭りゝが行われる。有名な富山八尾のへ風の盆ゝもその一つ。大風を吹かせる悪霊を夜通しの踊りとともに追い出そうというのだ。それらは農民にとって、その年の稲や作物の作柄を大きく左右する、いわば命にかかわる日であり、その災厄を逃れる手立てでもあるので、子どもたちもその一役を担った。

二百十日の祭りよ 西を向いて祭るよ

二百十日の祭りよ

二百十日の風をば 西の方さ祭るよ

二百十日の祭りよ

岩手県稗貴郡大迫町（現花巻市）わらべうた

ここに掲げるのは西鶴の『諸艶大鑑』に載る京都島原の子どもたちが「風の神」を送る図。じつはここでの「風の神」はへはやり風邪ゝで、疫病神の退散を願い鉦や瓢箪をたたき、幣串を振って町を歩きまわった後、川に流すところ。二百十日の風の神の祭りの古俗をまねたものと思われ参考になる。



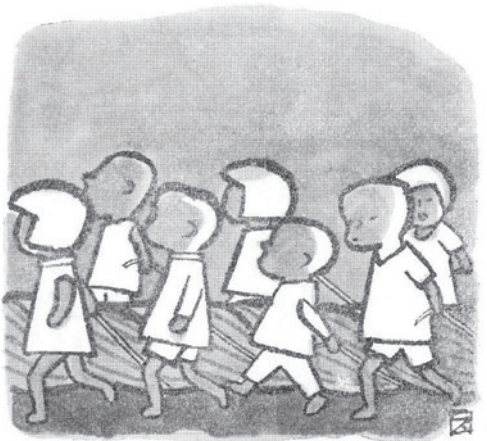
月見



月見
揚州周延画 葉月乃良夜 十二ひと絵



月見
吟光画 昔風俗双六より



十五夜綱引き 住吉重光画
久保けんお『南日本わらべうた風土記』より

十五夜のお月さま 早よ出ておじゃれ
子どもはハ喜び サマー 綱を引く
ハヤントセ ハヤントセ

鹿児島県枕崎市十五夜綱引きうた



七五三
風俗十二月 筆者蔵

男児は三十一日目、女児は三十三日目に至りて産土神詣をなす。

古えは男女共に三歳に至れば、髪置の儀を行いが、今はその名あるのみにて、唯赤飯などをたきて祝うに止るなり。後、男は五歳にして袴着の儀を祝い、女は七歳にして帯解の儀を祝う。いずれも十一月十五日を以てして、当日には其の児をして産土神詣なさしむ。

京都市子守唄

平出鏗二郎『東京風俗志』

赤ちゃんが生れた日を一日目として数え、多く男の子は三十一日目、女の子は三十二日目に産土神の神社にお宮参りをする。じっさいには生後三十日目を通じてから都合の良い日を選んでお参りする例も多い。山田耕筈の「中国地方の子守唄」でも知られるように、関西から中国地方にかけての所々の子守唄に「今日は二十五日 明日はこの子の宮参り」とうたう例がある。「二十五日」とうたうのは語呂のよさが関係しているのではないだろうか。



玉入れ競争
上條義守画 筆者蔵(以下同)

以上によりこの掛け軸は、明治・大正期の子どもの遊び三十種を一幅の軸にまとめた風俗画であり、西洋におけるウィーン美術史美術館収蔵のブリュゲルの「子どもの遊び」とも対照できる貴重な図であるといえる。

運動会

十五夜の晩に九州・沖縄地方では各地で盛大な綱引きが行われる。多くは地区対抗で行い、勝負の方角により農作物の作柄や漁の豊凶を占う。南九州では、大綱の左右にムカデの足のようになくさんの手綱をつけ、それを子どもたちがめいめい一本ずつ持ち、大勢で綱引きうたをうたしながら村中を引いて歩く。



杓子競争



提灯競争



綱くぐり

宮参りと七五三



宮参り 鈴木春信画
「狐嫁入」藤沢衛彦編
『民俗版画』より



宮参り
風俗画報より

「ごあいさつ」

約五年にわたり連載させていただきましたこの「絵解き 風流子ども歳時記」も、本稿をもって筆を置かせていただくことといたします。おもに近世・近代の子どもの遊びや行事やうたに視点を置き、なるべくヴィジュアルに目に見える形でと力を尽くして執筆に努力してきたつもりです。長い間のご愛読に、また編集や印刷のスタッフの皆様にも感謝申し上げます。新型コロナウイルスの感染が3年も続いてなお収まらず、地球温暖化だの異常気象だの地震災害だのと、先行き不安材料ばかり多いなか、ウクライナ戦争まで起こって、いかにも暗い世の中ではありますが、どんな状況にあっても私たちは日本人の民俗や歴史を見つめ、その地盤に立って何とか明るい希望の未来を見出したいものと思うこの頃です。皆様のご健勝とららばい協会のご発展を心からお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

尾原昭夫

「尾原先生ありがとうございました」

ららばい協会の重鎮、智恵袋、日本の宝。ららばい通信連載「風流子ども歳時記」はこの冊子の格。こもりうたやわらべ歌でわからない事があれば、いつも先生にご指導いただいています。

大抵は即答、更に資料をいただき、どれほど助けられたかしません。2016年秋号から今年秋号までの6年間、まずは今回でひとまず原稿は終了いたします。

「いつも素晴らしい印刷をいただきありがとうございます」

「いいえいいえ、こちらこそ、ありがとうございます。」次回からはわらべうたの歴史的検証をお書きくださいませ、とお願いいたしました。また、ぜひ期待してくださいませ。

西館好子

発達障害の人たちの出会いから 学んできたこと、行ってきたこと

臨床心理士 高原 朗子

私は臨床心理士として福祉や教育の現場で、今まで障害児者や辛い思いをしている子供たちを支援してきました。

1. 子供時代の体験が今につながる

私自身、子供時代は落ち着きがなくマイペース、お勉強はできない、「なんで？どうして？」の質問癖はあるなど、大人を心配させることも多く、祖母からは「この子はちよつと変わっているから、児童相談所に連れて行って相談した方がいい」とさえ言われていました。けれども両親は私の特性を認め、見守りながら育ててくれました。そのお陰か、小学校の時は行動にまとまりがなかった私も、中学生になった頃から徐々に取り組むべきことに取り組めるようになってきました。

さらに、集中力のない私でも読書は大好きでした。といつても飽きっぽいので、いわゆるジャンル等を問わずの乱読です。3〜5歳までは絵本、それ以降は名作全集のようなものや偉人伝などの

子供向けの本を片っ端から読み、百科事典を紐解いて知識を吸収していました。

今のようにインターネットのない時代でしたが、それでも知らない世界、知らない時代への関心と想像力が培われました。さらに読書の後は、その先の話を自分で想像してお話をつくるなどイメージ遊びが大好きでした。このことが、現在私に取り組んでいる心理劇（ロールプレイ）の臨床につながっています。

2. 発達障害（自閉スペクトラム症）の人達との出会い

初めて発達障害の人と出会ったのは、40年前、私が大学一年生でした。ある日の昼休み、私は偶然、友人Aさんから「今度の土曜日、手伝ってくれない？ 人手が足りなくて…」と言われて、誘われるままに行ってみた所は発達障害の子供たちと大学生が遊ぶ「土曜学級」という療育サークルでした。

3. 心理劇との出会い

今から約35年前、精神科医である迎孝久先生から心理劇（Psychodrama）という支援技法があることを聞きました。

心理劇はモレノ（Moreno, J. L.）によって始められた集団心理療法です。台本も小道具もない状況で即興劇により主役の心理的世界が展開され、自発性・創造性を発揮できるような場面が作られていきます。即興、つまりセリフや衣装や小道具がない状態で劇をするなどという、普通の人でも戸惑うと思われすよね。しかしそこを心理劇の主治療者である監督がうまく進めていくことによって、楽しく意味のある劇が展開されます。

そして、演じた人がその場にふさわしい役割を取ることでできたなら、日常場面においても人はより良く生きていくことができる、つまりコミュニケーション力が高まると考えられています。わかりやすく言うともまごとや学校ごっこなどのごっこ遊びのようなものであり、ロール・プレイといわれることもあります。

心理劇は一般の方の心の支援で使われるものであり、発達障害の人たちに使うことは無理であると35年前は言われていましたが、私は彼らに工夫次第で使える技法ではないかと研究を重ね臨床適用していきました。

4. 発達障害者への心理劇

発達障害者に対しては、特にその発達段階に応じて活用することが大事です。就学前から児童期の発達障害児に対しては、受

容的な雰囲気の中で仲間との体験を共有することを基本としました。遠足や運動会の劇、おいしいものを作って食べる劇、お買い物などの劇などを通して「他者理解を促す」「感情表現を促す」としました。またそれぞれが大好きな（押ししの）アニメキャラになって一日の生活場面を考え劇にするなど「彼ら独自のファンタジーの世界を共有する」こともよくやりました。

思春期以降、そして成人については、適切な形で自己を表現し、お互いに認め合う場面を演出することが発達支援にとって必要です。さらにこの時期は、他者との軋轢によるストレスや不満もでてきます。そして、日常生活での安定や就労および進学支援、自己の気づきや仲間関係の育成など様々な支援の形態が考えられます。

具体的には次のような劇を展開しました。1. 人生の中での楽しかった思い出を劇にして皆とその喜びを分かち合うこと。2. 逆に嫌だった、つらかった思い出を心理劇によって楽しい場面に変えることでトラウマを改善していくこと、または、失敗体験をどうやったら成功体験にできたか考え実際に劇にすること。3. 将来このような大人になりたいとのイメージを実際に劇にしてみること、等々です。

このように劇という架空の場面ながら心地よい感情体験をすることとで、まさに現実社会との軋轢に苦しんでいる彼らに対する心理療法的な位置づけで心理劇を適用しています。

彼らに心理劇を適用するにあたって、常に心がけてきたことは、彼らの思いやプライドを大切に、仲間との安心感や信頼関係を持てるような

そこには発達障害と診断された小学生が二十人位、じつと座っている子もいれば、何かしゃべりながら走っている子もいれば、勝手に遊んでいる子もいればと、様々でした。はじめは「これが発達障害？ 普通の子供と同じようにみえるけど」と感じていました。けれどもだんだんと独特の話し方をする子、同じ質問ばかりしている子、いつもハンカチを振り回している子など、それぞれのこだわりもわかるようになってきました。

参加したての頃は、子供から相手にされず、自分が空気のような存在に思えて「私、ここで役に立ってないんじゃないか。なんで来ているんだろう」とちよつと寂しくなっていました。ところが参加二か月目、B君（自閉症 10歳）が無言で、突然私に肩車を要求してきました。彼の意のままに肩車してあげて一度プレイルームをグルーッと回ると、またやつてくれというように肩車を要求するということがありました。それからB君の肩車の相手役としてプレイルーム中を走り回るようになり、その役目がとても楽しくなり、だんだんそのサークルで自分の居場所ができました。

大学卒業後、彼らのことをもっと知りたいと思い、大学院で障害児心理学を専攻し発達障害の心理特性や支援の方法について学びを深め、臨床心理士という資格を取得しました。

現在は、発達障害のことを理解する人も増えてきました。日本では10人に1人くらいは自閉スペクトラム症を含む発達障害であるという学者もいます。私自身は約40年前に偶然、発達障害の人とのつながりが生まれ、その後2000人近い当事者や保護者に出会うことになりました。

場面を作ることでした。そのような場面の中、彼らは頭の中でイメージする様々なことを実際に心理劇の場で監督（＝高原）が取り上げることととても喜びました。

そして本人が、させられたのではなく、自分で取り組んだことの意味を感じさせることや、過去のつらい体験を良い思い出に変えることなどが、この心理劇の持つ体験の現実性によって可能になりました。社会で生きていくためにやって良いこと、やつてはいけないことなどの判断を、心理的に守られた安全な場所で、文字通り身をもって体験できたことも意味があります。

これらの「発達障害者への心理劇」についての知見は、2003年に博士論文としてまとめ、その後も臨床を重ねています。

5. まとめ

以上、ご紹介した他にも私は2011年の東日本大震災発生時に発達障害児者の心理支援活動を行い、また私自身も被災した2016年の熊本地震では、子供たちの心のケアに取り組ましました。その経験を通して被災者の心の傷への対応をするには、さらには数年のコロナ禍によるウツや自殺の急増をみても、心理専門職が国民の心の健康のために働くことは意義があるという思いを強くしています。

これからも発達障害の人達だけではなく、日本の子供さん、子供を育てる親御さん、そして全国民が楽しく、生きやすい社会となるために、臨床心理士として微力ながら心理支援を続けてまいります。

MONOGATARI

はじめてのおとまり

作
川島俊六

かってくれました。

いっしょにおてづだいしました

「おはなたちも　とてもよろこんでいるわ」
おはなたちは　おみずをいっぱい飲んで
きもちよさそうです

そつとしむむころになつて おばあちゃんと
いっしょに おふろにはいりました

おばあちゃんのせなかをあらいました
「じゅんじゅんじゅん」

「たくさんたべないと おおきく なれないよ」

なむしてしまつたようです

泣かんこつちや
泣かんこつちや
おたからよ
泣かんこつちや
泣かんこつちや
うちのびい（女の子）

△福井県▽

阿弥陀さまからお手毬もろた
もろた手毬のいわれをきけば
薬師長者の機くずに
信心の誠を打ちまぜて
外でついても 南無阿弥陀仏
家でついても 南無阿弥陀仏
ねんねを守る唄うたへ
ねんねを守る唄うたへ
ねんねころん 泣くなよ

△福井県▽

鐘と槿木と
合ふと鳴る

△福井県▽



夕べ 夢見た お寺の裏で
猫が三味ひく カボチャが踊る
赤トウガラシが お手たたく

△福井県▽

泣くな 焦れるな こじれるな
こじれた竹の八重の花
花は咲いても実はならぬ

△富山県▽

朝の道には 星明り
晩の帰りは 月明り
ねんねころりよ おころりよ
おめつむつて うたきいて
唄はなにうた こもりうた

△富山県▽

よいよい よしの子に竹の子に
幽霊出るのが 茗荷の子
芥子の子 胡麻の子 ちんぴの子
ピリリとからいは 山椒の子
ぺちやくちやするのは 娘っ子

△群馬県▽

富士は良い山　高い山
山ほど見事に　育つがよい
藤は良い山　高い山
すつくと見事に育つがよい
ねんねんかんかん　ねんねかんかん

△東京都▽

雪は降るのに桜が見える
あれはお国が日向灘

△日向▽

ほうらほうら ほうらえよ
 坊のおとつちやは どこん行きやつた
 おかんさきや 焼酎のんで
 焼酎のんで 酔いくろうた
 正月どんの 便所汚して
 むらさけがわで 洗いやつたどん
 干すところがなくて 草ッ原へ
 干しちよきやつたら のつがいつて（不明）
 ひん燃えもつもつちよつた
 ほうらほうらほうらよ

△群馬県▽

連載

帯津良一

人生の三楽 いや四楽か。



会となったのです。いつものように、指定された街中の小料理屋さんに私がいちばんに乗り込んで、これまた指定された席に着席して、ぼんやりしているところへ、少し遅れて彼女がお仲間といっしょにやって来て、挨拶とともに私の対面（トイメン）の席に座りました。

これまでと雰囲気少しちがうのです。全体に少しふくらまして顔色がいいのです。

はて？と思っているところへ、先生！、私、ここで還暦を迎えました。と来るではありませんか。

えっ！ 60歳！・・・道理でこれまでになく煌煌と思っていた。60代は人生最高の時代ですよ・・・と。じつに楽しいひとときの始まりです。

これもいつものことですが、翌日の朝、お礼のファクシミリを書きました。送ってもらうために秘書さんに依頼しようとしたのですが、念のため、読み返してみると、これがどうしてもラヴ・レターに見えるのです。人目に晒したくありません。そこで封筒に入れて郵便で出すことにしたものです。いづれにしても、また楽しみが一つ増えました。



が、生と死の統合を果たしてあの世に歩を進めていますので、この案件もみたとししてよいでしょう。

かくして、楊名時先生こそ人生の三楽の見なうべきお手本と考えてよいでしょう。そこで最後にもう一テーマを挙げておきます。

酒は天の美禄なり。少のめば陽氣を助け、血氣をやわらげ、食氣をめぐらし、愁を去り、興を発して、甚人に益あり。

と。益軒先生は私と同じように相当な酒好きと見ました。

私は昔から、楽しく飲めば酒も養生法と考えてきました。だから私の診察室では、がんの患者さんとの酒談義が尽きません。



帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか？」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

白隠さんの『夜船閑話』と同じくらい好きなのが、これまた江戸時代の養生書である貝原益軒の『養生訓』です。養生について縦横無尽に語りながら、行間、からしみじみとした人生の味わいが滲み出ているところが堪らなく好きなのです。まず『養生訓』の底流ともいえるべき基本的な思想は**人生の幸せは後半にあり**ということ。益軒先生の言う人生の後半はどうやら50歳以後を指すようですが、彼の生きた元禄の時代の平均余命が40代であったことを考えると、遅きに失する感が無きにしてもあらずですが、彼の没年が84歳であることを考えると、十分にわかるような気がします。

私自身は人生の後半とは60歳からと思っています。しかも、60代こそ人生の華であるとする思っています。知力、体力はまったく衰えず、酒量も青春時代と変わらず。それでいて40年近い社会人としての経験は、自分の道というものに目覚めさせてくれました。人生の意味というものが少しわかって来たのです。

そうしてみると不思議なもので、たとえば女

次なるテーマは人生の三楽です。

道を行い、善を楽しむ。

健康で気持ちよく楽しむ。

長生きして、長く楽しく楽しむ。

この三つの楽しみを人生の三楽と呼んで大事にしています。

道というのは生き甲斐、あるいは生きることのテーマのようなもの。善というのは善悪の善ですが、むしろ、道を行うことによって身に備わってくる徳とか品性と考えたほうが分かりやすいかもしれません。さらに、同じ事なら、健康で気持ちよく楽しみ、長生きして長く楽しく楽しむというのです。じつに明快な論理です。

この人生の三楽を地で行ったのが、今でも敬愛してやまない太極拳の楊名時先生です。先生がいかに道を行い善を楽しんだか、先生の著書のなかにある次の三つの文章を読めば、手に取るように分かります。まずは

『太極拳のゆとり』（新星出版社）から、
①日々、太極拳を行うことによって、何かさわやかな、幸せな日を送れるような気がするのである。

②鑑真和尚には、お会いしたこともなければ、今後も直接にはお目にかかれない。しかし、和上の心を大事にし、不屈の闘志を学びながら、太極拳というすばらしいものを信じて、皆さんといっしょに歩んでいきたい、と思う。

この二つの文書から手に取るように分かるのは、楊名時先生が太極拳が好きで好きでたまら

ないということです。好きで好きでたまらないものこそ、道そのものです。だから太極拳は楊名時先生にとって、いちばんの道なのです。私も太極拳が好きで好きでたまらなくなって来ました。が、とてもこの境地には至ってはいません。そして三つ目は、

『太極 この道を行く』（海竜社）から。自分のことなので少し恥ずかしいのですが、

③帯津良一先生は私の主治医であり、飲み友だち、食べ友だちであり、太極拳の仲間でもあります。そして帯津三敬病院は私が自らの死に場所と決めた病院です。私はこの病院で帯津先生に看取られながら死んでいきたいと思っています。

と。

この本の出版が、2001年5月13日。その四年後の2005年7月13日、楊名時先生はこの文章そのままに、私の病院から生と死を統合した上で旅立って行きました。ということはこの文章によって著わされたことも、楊名時先生にとって道だったのです。

このように楊名時先生は 道を行い善を楽しむ。を地で行く人だったのです。

次いで、健康で気持ち良く楽しんだでしょう。私が知っているかぎりでも何回か入院をしていますので、決して健康ではないのですが、病の中にあっても、これをまったく気にせず、気持ちよく楽しんでいましたので、この案件も満たしています。

そして、三番目の件ですが、享年80歳が長く久しくにあたるかどうかということになります

第4回 「安珍清姫の唄」 (福島県白河市他)

今年(二〇二二年)九月上旬、福島県白河市の安珍堂を訪れました。和歌山県川辺町の道成寺を主な舞台とする「安珍清姫」伝説の主人公の一人、青年僧安珍の生誕地とされる場所です。東北新幹線の新白河駅からローカル線で一駅のJR白河駅で下車し、タクシーで約一〇分行くと、山



あいには青々とした水田が広がる根田地区に着き、道路沿いの右手の山すそに「娘道成寺 安珍之里」と白抜きで記された木製の看板が目に入ります。また、入口の道を挟んだ向かいには、白河ライオンズクラブが昭和五七年に建てたという「安珍生誕之地」の大きな石碑もありました。

残暑厳しい昼下がり、クマゼミの鳴き声を聞きながら、急な斜面の石段を一〇数メートル登って行くと、安珍堂がありました。あいにく引き戸がすべて閉まっていたので覗くことはできませんでしたが、この中には安珍像が収められています。案内板「安珍像」によれば、この安珍像は元々、和歌山の道成寺に所蔵されていましたが、昭和六〇年、道成寺および地元有志の好意により、東北新幹線上野駅乗入れを記念し、安珍の生誕の地とされるこの場所に里帰りしたものだそうです。また、この地に伝わる安珍念仏踊りは、彼の冥福を祈るため根田の里人がはじめたものといわれ、歌舞伎などで知られる「娘道成寺」の物語を美しく歌い込んだ念仏踊りとして知られ、毎年三月二七日の安珍忌に供養として踊られています。動画サイトでも地元中学生による念仏踊りを閲覧することができます。

「安珍清姫」伝説とは、同じ案内板によれば以下の通りです。修験僧安珍が延長六年(九二八年)、一九歳の時、修業のため熊野山に登った折、その途中で泊まった紀州御坊の庄司の家の娘、清姫一三歳に恋慕されたが、安珍は、幼女の気まぐれと考えて「未の契りに答えてしまふ」(結婚を約束する)。後に、これが偽りと知った清姫は、激怒のあまりに蛇身と化して安珍を追い、道成寺の鐘の中に逃げ込んだ安珍を恨みの火焰で責め殺す。

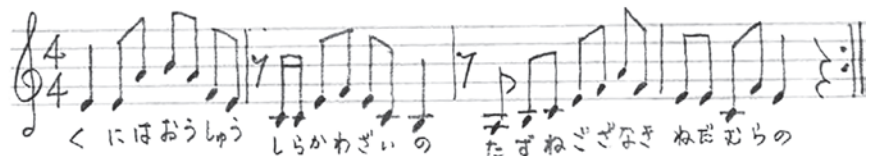
この連載の前回「根来の子守唄」でも紹介しましたが、「安珍清姫」は全国に数ある蛇娘伝説の中でも特に有名で、室町時代の頃より、能や歌舞伎、人形浄瑠璃などの演目として上演されてきた他、語り物や民謡として歌われてきました。私は二〇二〇年に制作された『福島県奥会津・五十嵐七重の語りを聞く』(制作・みやぎ民話の会)という四枚組DVDの中で、七重さんの姑のキヨイさんが福島県三島町西方に嫁ぐ前の一〇歳頃、福島県との県境にある群馬県片品村で歌っていたという、全三二連からなる「安珍清姫ご和讃」に出会いました。いくつか記憶の飛んでいた箇所を七重さんが根田の郷土史家に尋ねて



安珍像

補足したそうですが、それにしてもこの長大な物語唄を、収録当時八〇代だったキヨイさんはほぼ七〇年振りに歌われたそうで、その記憶力に驚かされます。七重さんが歌ったメロディと、歌詞の最初と最後の部分を挙げておきます。

国は奥州 白河在の たずねござなき 根田村の
父は代々 山伏なるが 実は名高き 桃かず殿
年に一度の 熊野や参詣 参詣してから こち参る
のぼりくだりの 中宿なりき 宿の娘の 清姫は
七つ八つから 表に出て、 帰るお客を 待つわいな
……
大道庭の 大鐘は 縦は七尺 横五尺
厚み六寸 この鐘は 無情の鐘と 見受けたり
中に安珍 こもりしを 七重に巻き絞め 炎を吹き
中で哀れな 安珍様よ 中に哀れな 安珍よ



七重さんは「ラ・シ・ド・ミ・ファ・ラ」という都節音階のもの悲しい旋律で切々と歌われていますが、他にもいくつか異なるメロディが記録されています。また、歌う用途も、いわゆる伝統芸能としての謡曲や浄瑠璃の他、一般庶民による民謡や俗謡としての「念仏踊り唄」「盆踊り唄」「田植え唄」「紙漉き唄」「手まり唄」「子取り鬼唄」など様々ありますが、「子守唄」としても歌われていたことが吾郷寅之進・真鍋昌弘『わらべうた』(桜楓社)に紹介されています。「昔安珍 日高の川で 命とられた清姫に／日高山には 二いるござる 思ひきる瀬と きらぬ瀬と／日高川には 蛇がある そうな 大きな蛇ぢやそな うそぢやそな／来いよ来いよと 日高の川で 舟子呼んだのは清姫さんか／なぜに此の橋渡られぬ」(伝承地不詳、九二頁)。

子どもを寝かせつける時の歌詞としては明らかに不似合いなこの唄が、何故子守唄として歌い継がれてきたのかを考えてみると、さきほど列挙したジャンルにも共通するのですが、主な歌い手が少女や娘たちだったからだと思われます。現実の自分にはとても叶えられそうにないことをやってのけた清姫に対する憧れの想いを、生活のさまざまな場面において、歌うことで昇華させていたのではないのでしょうか。

それでは、安珍の出身地が福島・白河と伝えられてきたのは何故でしょうか。この夏、仙台育英高校の優勝により、高校野球の優勝旗が史上初めて白河の関を越えたことが大きな話題となりましたが、青年僧安珍は今から一千年以上前に白河の関を越えて紀州熊野へ参詣したと伝えられています。



安珍堂

東北・福島と近畿・和歌山をつなぐ存在として有力視されている歴史的なキーパーソンは修験道の山伏です。熊野は修験道の聖地として知られていますが、東北地方もまた出羽三山をはじめ修験道の盛んな地です。源義経の忠臣・武蔵坊弁慶は一説によると和歌山県田辺市が生誕の地とされています。京都・鞍馬寺で修験僧の教えを受けた義経と五条大橋で出会った弁慶は山伏のいでたちをしており、以後、終生その身を義経に捧げました。が、彼の終焉の地は奥州・衣川でした。

興味深いことに、山伏には宗教者・修行者としての貌(かたち)の他に、金銀や鉄鉱石などの鉱脈をよむ「山師」の貌もあったようです。紀州と奥州は共に古来、鉱物資源が豊富であり、山師たちや鉱石採掘に従事する人々のネットワークもできていたことがわかっています。こうした宗教的・経済的なつながりを背景として生まれた、福島と和歌山の若い男女の悲恋の物語が、幾多の娘たちによって憧れとともに歌い継がれていたと言えるでしょう。

直島便り ⑬

笑い声のあふれるところ



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

仏教では、時は一瞬のことであり、常に生と滅のくりかえし、永遠なるものはない。今という時間は二度と来ない、と学ぶ。

そんなことは重々分かっているつもりであるが、今年の夏は、確かに今まで一度も味わったことのないような夏であつたような気がする。

初めて聞くような気象用語、「危険な暑さ」「熱中症アラート」「線状降水帯」「記録的短時間大雨情報」等々。私たちが子どもの頃には、目にすることも聞くこともなかったような言葉の数々だ。そのうえこの頃は、今日明日にも核戦争が起こってしまうことも不思議ではないと思われるようなニュースに、身の毛がよだつような気分を襲われる。そんな中でも、一瞬一瞬と、時は過ぎていく。私の身近なところでは、瀬戸内国際芸術祭も秋会期を残すだけになった。

今回は、さすがにまだ外国からの観光客はほとんどいなかったけれど、国内からの観光客は非常に多くて、島内のホテルも民宿もいっぱいのにぎわいだったようである。こんなに大変な時節なのに、アーティストや主催者が力を合わせて、様々な制限のある中、たくさんの方々の協力をいただ



宇野駅の貸自転車

きながら、何とかこれだけの芸術祭ができたのは素晴らしいことだと思う。人、物、時間：色々なものが繋がりがあって、ひとつの大きな物ができたのだ。これこそ「ご縁」であると思う。

しかし、芸術祭は無事開催できたものの、コロナはまだまだ収束がみえない。

最近では、小さい子どもたちの感染も大変多いと聞く。それを聞くと、どうぞ子どもたちが病気になるまいように、と願う。

以前にもここで書いたが、私は仲間たちと、お地蔵さんの漣掛けをつくって、直島のお地蔵さんたちに、赤くてきれいな漣掛けをつけてあげよう、というボランティア活動をしている。島にくる観光客の人たちに見てもらいたい気持ちもちろんあるが、これから成長していく子どもたちが、無

病息災で成長してほしい、という願いも込められている。

お地蔵さんの真言（仏教で呪文的に唱えられる語句。「真実の言葉」を意味する）は、

「おんかか、びさんまえそわか」

という。「かかか」は、子どもたちの笑い声を表しているという説もある。

子どもたちはもちろん、大人も含めてみんなの笑い声が、か、か、か、か、とそこにもここにも充滿する時こそ、平和で幸せな日々であると思う。

今日も、仲間と集まって漣掛けをつくり、か、か、か、と笑いながらお地蔵さんをきれいに掃除させていただく。

裁縫で針を持つことは、とてもぼけ防止になるらしい。また、箒をもって掃除すると、足腰が伸びて良い運動になる。年寄りでもできることを少しずつしていけば、寝たきりにならないですむかもしれない。無理のない範囲で、ちよつとだけでも頑張ってみよう。



宇野のチヌ

INTRODUCTION

「老記者の伝言」

（朝日社刊）

元朝日新聞記者 木瀬公二

敗戦の日に、「負け戦を勝ち戦のように伝えた責任をとる」と朝日新聞を退社した「反骨の記者」が、むのたけじだ。その人が2016年8月に101歳で亡くなるまでの7年間、聞いた話をまとめたものが「老記者の伝言」となつて「朝日文庫」に収められた。

後輩記者の私は、戦時中に軍部が新聞社に乗り込んできて、あれこれと脅しをかけたと思っていたが、むのは「そんなことはほとんどなかった」と言った。国は、国防保安法をつくり、国家総動員法をつくれればよかった。あとは報道側も国民も自己規制を始め、お互いを監視し合い、「あいつは非国民だ」と告げ口合戦が始まった。権力側が発したそういう信号を過敏に受け取り、日に巨大化し原爆投下までつながつた。2016年に当時の高市早苗総務相が、放送法に基づく放送停止に言及した時、出演者が交代したテレビ番組は一つや二つではなかった。その同じ線上に、モリ・カケ・桜問題にみられる官僚による政治家への忖度があり、旧統一教会の扱いがある。おまけに核戦争が現実味を帯びてきた。我々がそれにどう立ち向かえばいいのか。本書にはそのヒントがたくさん書かれていると確信している。



活動報告

■配食（毎月二回木曜日）

つつがなく、隔週木工曜日の配食は進みました。

8月のみ、11日が山の日の休日のため、前日の10日に変更となりました。お見えになつたのは11組の常連となつた皆様に。三組ほどは、虐待保護施設に支援しました。

8月25日に新規申し込みでお見えになつた方は、親子共に精神性の病で、正直対応に苦慮しました。相頭の良さに自信があり、そのプライドが別れた夫を許せない、に執着しているように思いました。

事務所は新しく担当して下さった藤原さんがコロナ感染で、7月の配食が終つた後8月一回目は欠席「ええ、残念」というシングルマザーの皆さんから相談者がいない嘆きの声が上がりました。

8月25日には離婚が正式に認定されたという方の明るい報告を受けて、みんなで拍手。「本当に嬉しい」という本音と、子どもの心を考えて少し複雑、手たいて喜んでいていいのかなあ、とか、事務所の方も考えてしまいました。

とうとう離婚が結婚三組に一組に達したと政府の発表、その家族の変化にどう子どものことを考えたらよいのかまでは到底施策が追いついていません。区切りずつ解決して、次に行くよりないという事でしょ



■栃木グリーム館イベント」8月18日(日)

栃木県下野市、町が童話グリームのおとぎ話のような建物が目立ちます。駅舎も童話の世界のような建物です。そのような建物で町を創っていききたいという政策がなされていると聞きました。グリームの館でのコンサート、多くの皆さまが来てくださいました。

藤井秀亮さんと西山琴恵さんの息のあつたコンビで、人魚の鱗」の朗読から幕開けしました。童話、子守唄等歌いました。西館理事長からお話と唄がなぜ大切か、更に子どもたちの考える事の力を養うという話をしました。



雨の中を出発しましたが、会の始まる頃には晴れて、なお、終了時には晴れていました。

おまけのようにグリームの館の理事長の谷萩昌道さんが見えになり、ご住職を務める名刹下野薬師寺に立ち寄るよう、お招きを受けました。早速みんなでお邪魔し、鑑真和尚ゆかりの名刹をご案内いただきました。今秋には栃木博物館で記念展示企画展があるそうです。

さようなら青木新門様

詩人で作家の青木新門さんがこの8月6日（金）に富山の日赤病院で逝去なさいました。享年85歳、旧子守唄協会では本当にお世話になりました。ご冥福をお祈りいたします。あまりに急な訃報のため、次号に思い出をつづてみたいと思います。

西館 好子

応援がしてくださる方々

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本らばい協会への応援をよろしくお願い申し上げます。

2022年4月1日から2022年9月21日現在 五十首順

「個人」

小野静雄	紺野泰子	田中壮一郎
小野武彦	齊藤光恵	棚澤青路
小野寺純治	齊藤淑子	棚橋牧人
小畑晶子	酒井董美	田邊邦典
尾原昭夫	坂野紀多子	玉井祥子
小原みどり	坂元威佐	千葉邦博
帯津良一	佐藤厚行	土正美
小山芳郎	佐藤久子	泊和男
加賀山昭	佐藤洋詩恵	富田富士也
春日宏美	沢健一郎	奈加靖子
池本幸一	沢田茂子	永田亨
井坂義雄	門山榮作	長縄千鶴子
井田範子	神長倉万美子	中根宏昭
伊東信子	川井徳子	永見徳代
伊藤守	河下則子	中山公隆
今井要一	神崎邦子	南部和彦
今村威	菊池弥生	南部昌宏
臼杵正孝	木瀬公二	西尾まき
内野綾子	北実	西川京子
鶴野祐介	北出広子	庭山幸子
梅田郁子	木下由美子	庭山正一郎
江藤昭子	木村賢史	須崎晃一
江老沢勝二	木村宏一	須崎晃一
江村清	木村泰雄	鈴木としお
大泉勉	久世アキ子	袖山榮眞
大河原尚夫	国見修二	素野悟
大川幸枝	久良木恵子	田井二郎
大嶋孝造	栗林欣一	高野展子
大野隆司	小泉晶一	高橋佳奈枝
岡本喜久穂	小刈米葉子	高橋如晴
奥山糸子	小玉圭司	高松榮子
長田暁二	近藤征治	多田式江
小田紀美子	金野光宏	田中厚子
小貫洋子		田中敬子

(敬称略)

「団体」

福島昭子	福永教正	福島寛昌	藤森久美子	本條秀太郎	本多宏子	本間渉夏	増田義弘	町田ゆき子	松代洋子	松永忠夫	松原健之	三浦敏昭・美智代	三上章道	宮崎直子	宮地勝美	武藤元昭	村田正巳	安岡富士子	谷萩昌道	山折哲雄	山川忠	山川敏明	山崎秀甲	山下五郎	山下貞子	山根光恵	山元絵津子	山本ヤエ子	谷村啓子	結城天鼓	湯川れい子	横沢裕子	吉田記世子	吉田博	吉永小百合	米野宗禎	渡辺久子	株式会社カヤ不動産	全国わらべうたの会	株式会社弘蘭西屋	株式会社ミールケア	よし田
------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	----------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	-------	------	-------	-----	-------	------	------	-----------	-----------	----------	-----------	-----



ご寄付の応援を お願いします！

日本らばい協会の活動は、皆様からのご寄付に支えられております。すべての子ども達が希望に満ちた未来をつかめるよう、皆様のお気持ちの託された寄付金を、様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様には小冊子「らばい通信」、イベントのご案内、また活動報告をお送りさせていただきます。どうぞ時期や金額に関わらず、年間を通してご寄付をお願い申し上げます。ご寄付への詳細は、日本らばい協会事務局までお問い合わせください。

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012 トクヒ日本らばい協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真なども募集しております。

◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの活動など紹介したい情報がございましたら、ぜひぜひお教えください。「らばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？

◎皆様と共にらばい通信をより良いものにしていきたいと考えております。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

日本らばい協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054 東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
TEL 03-6458-0283
FAX 03-6458-0284
Eメール info@komoritajp
URL https://www.komoritajp/

らばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。